

地域と学校がパートナーとなって子どもの成長を支える

# コミュニティ・スクール通信

岩手県教育委員会事務局  
生涯学習文化財課 地域学校連携担当  
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸 10-1  
TEL 019-629-6173  
FAX 019-629-6179  
E-mail DB0005@pref.iwate.jp

令和5年7月13日発行 第28号

## 6/28 県北教育事務所管内 「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム

県北教育事務所のフォーラムは、「地域の实情に応じたコミュニティ・スクール導入の構想」について、秋田県生涯学習センター社会教育主事・皆川雅仁氏と同センター社会教育主事・工藤伸也氏を講師に招き、熟議体験や講話を通して理解を深めることができました。

熟議体験を取り上げたフォーラムは、県内初の試みであり、参加者が2会場に別れ、熱心な熟議が繰り広げられました。



講話「CSと地域学校協働活動を支えるもの ～合意形成における熟議の意義～」

講師：秋田県生涯学習センター

社会教育主事（元 文部科学省 CS マイスター） 皆川 雅仁 氏



- ・「社会に開かれた教育課程」を実現するには、コミュニティ・スクールが最適のシステムである。
- ・地域の思いや願いを「熟議」を通して取り入れ、目指す目標を一つにする必要がある。
- ・「熟議」を活用し、教育課程を地域に開くことで、地域住民の当事者意識を醸成することができる。
- ・「熟議」を開催することで、学校運営協議会で話題になったことに対する意見を、より多くの地域住民から集めることが可能となる。

参加者から（一部抜粋）

- ・熟議が思考を促し、多くの収穫を得ることができることを体感した。本校では今年度からCSを導入したが、焦らず熟議で今後の方向性を見だし、具体的に何ができるかまでは、たどりつきたいと思う。
- ・活動を具体的にしていくために、まずは熟議を始めなければと思った。校内で熟議めいたことは行ってきたが、まだ十分ではなく、どう進めれば…というまよいもあった。本日の講話や演習で学んだこと、感じたことを生かし、あらためて「始めよう」と思った。
- ・「熟議」をもっとハードルが高いワークショップだと思っていたが、身近で親しみやすく、参加者が身を乗り出し、積極的に思いを共有していたことが印象的だった。当市でも、地域や学校の関係者と熟議の重要性を共有し、導入したいと思う人を増やせるよう、研修の機会など伴走支援を検討していきたい。
- ・二戸地域の新しい特別支援学校づくりにあたり、「地域」「ふるさと」の視点をもって取り組んでいくことの大切さを実感した。本日学んだことをぜひ、今後生かしていきたい。

本通信は下記ホームページに掲載しています。（※ダウンロード可能）

岩手県生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」

<https://manabinet.pref.iwate.jp>



「まなびネットいわて」には、文部科学省が作成したパンフレットや全国の事例紹介があります。また、岩手県が作成した資料や県内の事例等の紹介もあります。ぜひ、ご覧ください。